

入会のお誘い

地球は狭くなったという
確かにそうかもしれない
私たちが毎日食べる食べ物も
海を越えてきたものばかりだ
その海の向こうにどんな人たちがいて
どんな生活をしているのか
私たちはテレビの画面や
雑誌の写真で見たことがある
だけど そこからは
額に流れる汗のしょっぱさも
ランプを囲む家族団らんのにおいも
そして 病に苦しむ者の吐息も
知ることはできない

私たちは知っているようで実は知らないのだ
私たちは彼らのために
いや それ以上に自分たちのために
彼らの本当の姿を知らなければならない
なぜなら

私たちが笑っているとき
彼らは泣いているかもしれない
私たちがおなかいっぱいするとき
彼らは空腹であるかもしれないからだ

入会のご案内

「どさんこ海外保健協力会」は会員ひとりひとりの参加によってつくられているNGOです。本会の活動全体は皆様からの会費と寄付によって行われています。皆様のあたたかいご支援をお願いいたします。

代表 大泉 樹

- ◆ 年会費
一般：一口5,000円 学生：一口3,000円
(郵便振替 02740-9-11929)
- ◆ 事務局
〒060-0042 札幌市中央区大通西15丁目2-18
ファミリー西15 303号室
お問い合わせは…080-4049-1135
メール：hopedosanko@yahoo.co.jp ^

札幌事務所案内図



◆ホームページ、ブログ

URL：<http://homepage3.nifty.com/hope-dosanko/>
ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/dosanko_community_health
「どさんこ海外」で検索ください

NPO法人

どさんこ海外保健協力会

DOSANKO Community Health International
(略称 DOSANKO)



ネパールの子供たち

どさんこ海外保健協力会は
どなたでも参加できる
北海道発のNGOです



2012.7

●会を支える3つの目標

「どさんこ海外保健協力会」は
すべての人の健康と平和を願ってー

1. 北海道の一般市民が中心となった活動をしていきます
2. アジアなど発展途上国に生活する普通の人々の自立を支援していきます
3. 同じ地球上の他の国や地域のことを考える中から、北海道に住む私たち自身の生活の問題を見直していきます

●国内での活動

1. 講演会

ワーカー帰国時等、講演会を開催し、発展途上国の実情や海外協力のあり方などをお伝えしています。

2. オープンハウス（学習会）

毎月1回、テーマを決めて話し合ったり、楽しみながら国際協力を考えるために集まっています。

3. スタディツアーの企画

毎年、ワーカーを訪問するスタディツアーを企画しています。

4. 会報の発行

隔月で機関紙「どさんこ」を発行。カンボジアからの便り、国際協力に関係した記事、講演会などの催し物の案内を掲載しています。

●東日本大震災支援活動

2011年3月の震災直後より、

- ・ 医療機関での診療支援
- ・ 気仙沼市巡回療養支援隊に参加。各県から派遣される保健師とともに避難所、仮設住宅、在宅の訪問健康相談
- ・ 仮設住宅への巡回相談
- ・ 気仙沼市階上（はしかみ）地区の住民有志が中心になってつくった「生活支援プロジェクトK」の設立に参加、同地区内の仮設住宅でのコミュニティづくりと生活支援の活動。

などを行ってきました。2012年度も支援活動をつづけています。

●カンボジアでの活動

「どさんこ」は1994年の設立以来、カンボジアへワーカーを派遣し、貧しい農村の住民が、彼らの命と健康を守るために自分たちで自立して活動できるように支援を続けてきました。

大泉樹医師を1994年から1998年まで、船田和加医師を2003年から2007年まで派遣、現地NGOと協力し、農村地域に“コミュニティ協同組合”を設立。協同組合活動の一環として、村での健康教育や初期治療等を担う「保健ボランティア」の育成、安全な出産と家族計画、乳児の健康管理を担う「伝統産婆」への教育、病気や怪我のときに田畑を売らなくても医療費を無利子で貸し付ける緊急貸付制度「リファーフアンド」設立等を支援しました。これらの活動は、現在も現地NGOの手により継続されています。

そして2007年から2011年1月まで、丹野太介氏をカンボジア北東部の辺境州ラタナキリに派遣し、カン

ボジア人スタッフと共に、ベトナム国境近くのジャライ族という少数民族の村での活動を開始しました。

辺境の地にまで押し寄せる開発の波は、村の今までの伝統的な生活を変化させ、半ば騙されるようなかたちで土地を失いつつあり、これまでの生活が脅かされつつありました。教育の機会を持たなかった彼らの「子供たちに学校へ行かせたい」という強い願いのもと、「どさんこ」は小学校建設と教師の養成を行い、その学校をコミュニティの場として、識字教育、健康教育、産婆さんへの教育を提供しながら、彼らが助け合って自分たちの生活と文化を守る力を持てるよう、支援しました。現地の村と現地政府の教育機関による運営が軌道に乗ったことを確認し、2012年3月、ラタナキリでのプロジェクトを終えています。

●ネパールでの活動

当会の初代代表の樫戸健次郎医師がネパールに駐在し、ネパール西部の山岳地帯に位置するチョウジャリ病院に公衆衛生部門を立ち上げました。

この病院では3日もかけて通院する遠方の患者さんも多く、病気の予防などの健康教育がごどもたちの命を守ることに直結します。また、周辺の学校の水場整備や、孤児の就学支援、地元の貧しいけど成績優秀なごどもたちが看護師等の学校に行くための奨学金支援も行い、将来のこの農村地域の保健医療の人材育成にも努めています。

そして、北海道から次世代の国際協力を担う人材の育成のため、国際協力研修生をネパールへ派遣する事業も行っています。